



袋井あやぐも学園 袋井中学校だより

**あ や ぐ も**

幼小中一貫カリキュラムにより自主（Iの力）と（Weの力）を育成する学園

— 自主・協同 —

～夢を追い続ける生徒の育成～

令和4年4月22日発行

## 袋井中学校の新年度が スタートしました



4月7日、午前中に1学期始業式・午後に入學式が行われました。  
保護者や地域の皆様には、昨年度同様に袋井中学校の活動への御理解と御支援をよろしくお願ひいたします。

### 始業式 校長式辞より



みなさん、おはようございます。春休みを終え、みなさんが元気に登校してきたことをとてもうれしく思います。

新年度を迎えるにあたり私からは大きく2つのことをお話します。

1つは、袋井中学校の校訓「自主・協同」についてです。

「自主」は学習や生活、諸活動のそれぞれに目標を立て、実現に向かう努力を怠らず、自分を鍛え続ける姿です。「協同」とは、集団の一員として自分の役割を自覚し、人のために一生懸命汗を流す姿です。

行事面でいえば、彩雲祭やあやぐも祭での生徒が主体になって取り組んできた姿は校訓の「自主・協同」で目指す姿です。行事面だけでなく、学習面や部活動でも同じです。

ここで実験をしてみたいと思います。この一升瓶にある水をすばやく抜くにはどうしたらいいでしょうか？一升瓶を割ってはいけません。みなさんならどのようにやりますか？まずは一人で考えてください。次に近くの人と相談してください。それでは前に出て実験をしてみましょう。（生徒と教師が実演）

答えは一升瓶を回転させて渦を作ることですね。渦の中心に空気の通り道ができ素早く水が抜けるというわけです。しかし、あるものを使うともっと早く水を抜くことができます。その方法が何か考えてみてください。答えがわかった人は、私に会った時に教えてください。

今の実験で体験したとおり、授業中の課題に対して、それが易しいものであっても難しいものであっても、まずは自分で考えてみる。分からなかったら教科書やタブレットを使って自分で調べたり、友達と一緒に考え答えを導いたりするといった自分で考える学びの姿勢が大切です。係活動や委員会活動などでもみなさんが工夫して実践することにぜひ挑戦してほしいと思います。

もう一つの話としては、世界に目を向けてほしいということです。

今世界に目を向けると、家で安心して暮らす、学校に登校するという日常生活ができなくなっている国があります。ロシアがウクライナに侵攻したことによるものです。

ウクライナ人の18歳、シャルコ・ソフィアさんについての報道がありました。彼女は、ロシアの軍事侵攻を受け、旅行でウクライナを訪れていた日本人の友人と共に隣のポーランドに移動し、現在は浜松市の友人の自宅で暮らしています。その彼女が会見で次のように言っています。「日本人にはニュースを見て、ウクライナで何が起きているか目を背けず関心を持ち続けてほしい。ウクライナで何が起きているかを忘れないでほしい。」と。

このソフィアさんの言葉を聞いてみなさんはどのようなことを感じるでしょうか？

私を感じたことは、何が起きているのかを正しく知ることが大切だということです。

「Think globally, Act locally.」という言葉もみなさんも聞いたことがあると思います。これは「世界規模でものを考え、身近な地域で活動しなさい。」という意味で環境問題でよく使われている言葉です。ソフィアさんが言っているとおり、ウクライナで起きていることにみなさんも目を向けてください。そして、可能であれば自分たちで何ができるかを考えてください。

以上で話を終わります。